

グリーンボンド / グリーンボンド・プログラム 外部レビューフォーム

セクション1. 基本情報

発行体名:	株式会社ウエストホールディングス
グリーンボンド又は フレームワークの名称	グリーンファイナンス・フレームワーク
外部レビュー者名:	株式会社 日本格付研究所
本フォーム記入日:	2020年2月25日
レビュー公表日:	2020年2月25日

セクション 2. レビューの概要

レビュー対象

本レビューでは、以下の要素について審査し、グリーンボンド原則との適合性を確認した。:

- | | |
|--|--|
| ☒ 資金使途 | ☒ プロジェクトの評価と選定プロセス |
| ☒ 資金管理 | ☒ レポーティング |

ROLE(S) OF Independent External REVIEW PROVIDER

- | | |
|------------------------------------|--|
| ☐ セカンドオピニオン | ☐ 認証 |
| ☐ 検証 | ☒ スコアリング／格付け |
| ☐ その他: | |

注:複数のレビュー、異なる提供者がいる場合、レビューごとに個別のレビューフォームを提供してください。

レビューのサマリー 及び 評価レポート全文へのURLリンク

株式会社ウエストホールディングスは、トータルエネルギーソリューション企業として、太陽光発電を中心とした再生可能エネルギー事業、省エネ事業、電力事業を行うウエストグループの持株会社である。1984年5月に西日本鐘商株式会社として設立後、1985年4月に西武ハウス工業株式会社、1989年6月に株式会社ウエストに改称、2006年3月に持株会社体制に移行し、現在に至る。設立当初は住宅サービス事業を営み、2006年の太陽光発電事業参入後、2012年には太陽光を主力事業と位置付け、メガソーラーから中小規模の産業用太陽光発電、住宅向け太陽光に至るまで、太陽光の事業開発・施工・O&Mといった太陽光事業全般への取り組みを順次開始した。2014年以降はそれらの取り組みに加え、太陽光を中心とする再生可能エネルギーを軸とした事業領域におけるトータルエネルギーソリューションの実現に向け、最適な省エネサービスの提供を目指すウエストエスコのほか、再生可能エネルギーの活用を目指した新電力事業、エネルギーソリューションを活用した地方創生、タイ王国での海外展開といった事業にも着手するなど、多種多様なサービスを展開している。

ウエストホールディングスは全国各地の地域金融機関や自治体と提携した環境取り組みを推進する経営姿勢を特色としており、環境および地域創生・活性化への取り組みを通じた積極的な事業展開を行っている。

今般の評価対象は、ウエストホールディングスが社債または借入金等（グリーンファイナンス）の手段により調達する資金を、環境改善効果を有する資金使途に限定するために定めたグリーンファイナンス・フレームワーク（本フレームワーク）であり、本フレームワークがグリーンボンド原則（2018年版）、グリーンボンドガイドライン（2017年版）およびグリーンローン原則 に適合しているか否かの評価を行う。今般のグリーンファイナンス・フレームワーク評価は、ウエストホールディングスのグリーンファイナンス方針に係る評価を行うものである。

本フレームワークによって調達された資金は、太陽光発電所および風力発電所の建設・開発等の適格プロジェクトに関連する資金に充当される。また、ウエストホールディングスは本フレームワークで対象とする適格プロジェクトに関して、想定される環境に対する負の影響を特定し、回避・緩和策を講じるとしている。以上より、JCRは本フレームワークで定める資金使途について、高い環境改善効果を有するプロジェクトを対象としておりと評価している。

適格プロジェクトの選定については、本フレームワークに定められたプロセスに従って評価・選定が行われ、ウエストホールディングスないしはグループ会社であるウエストエネルギーソリューションの取締役会にて機関決定される。グリーンファイナンスによって調達された資金はあらかじめ選定された個別のプロジェクトに全額が紐付けられるほか、追跡管理および内部統制にかかる体制についても十分に構築されている。資金の充当状況および環境改善効果にかかるレポート内容についても適切なものとなっている。したがって、JCR は本フレームワークについて、調達資金に関する管理運営体制が確立されているとともに、投資家に対する透明性を有するものであると評価した。

これらの結果、本フレームワークについて、JCRグリーンファイナンス評価手法に基づき、「グリーン性評価（資金使途）」を“g1(F)”、「管理・運営・透明性評価」を“m1(F)”とした。この結果、「JCRグリーンファイナンス・フレームワーク評価」を“Green 1(F)”とした。

本フレームワークは、グリーンボンド原則、グリーンローン原則および環境省によるグリーンボンドガイドラインにおいて求められる項目について基準を満たしている。

評価レポート全文へのURLリンクは以下をご参照。

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

セクション 3. レビューの詳細

レビュー者は、できる限り以下の情報を、コメントの枠を使用し、できる限り提供することが推奨される。

1. 資金使途

本項目に係るコメント欄：

a. プロジェクトの環境改善効果について

- i. 資金使途として本フレームワークで掲げられた適格グリーンプロジェクトは、太陽光発電や風力発電といった再生可能エネルギー事業であり、環境改善効果が高い。
- ii. 資金使途は、グリーンボンド原則、グリーンローン原則または環境省のグリーンボンドガイドラインに定義されているグリーンプロジェクトのうち、「再生可能エネルギー」に該当する。

b. 環境に対する負の影響について

ウエストホールディングスは適格グリーンプロジェクトの実施に際して、本フレームワーク記載の通り、環境に対する負の影響を特定し、回避・緩和策を講じている。JCRはそれらの回避・緩和策について、社内において許認可申請や事前説明、環境アセスメント等によって環境に対する負の影響を把握し、対応を行う体制が構築されており、適切であると評価している。

GBPにおける資金使途の分類：

- | | |
|--|---|
| ☒ 再生可能エネルギー | ☐ エネルギー効率 |
| ☐ 汚染防止及び管理 | ☐ 生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理 |
| ☐ 陸上及び水生生物の多様性の保全 | ☐ グリーン輸送 |
| ☐ 持続可能な水資源および廃水管理 | ☐ 気候変動への対応 |
| ☐ 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス | ☐ グリーンビルディング |
| ☐ 発行時点では明らかでなかったが、現時点においてGBP分類に該当することが予想される、または、まだGBP分類に含まれていないが適格グリーンプロジェクト分野と思われるもの | ☐ その他 |

GBP以外のタクソノミー（プロジェクト分類）を使用している場合はそれを特定すること。：

2. プロジェクトの評価と選定プロセス

本項目に係るコメント欄：

発行体は資金使途について、明確な環境面での目標、プロジェクトの選定基準およびプロセスを定めている。
当該事項は、JCRによる評価レポートの中で開示されている。

評価と選定

- | | |
|---|--|
| ☒ 発行体の環境面での持続可能性に係る目標が定められている | ☒ 対象事業が選定基準分類に適合していることを決定するプロセスが文書化されている |
| ☒ グリーンボンドの資金使途としての適格プロジェクト基準が定義され、透明性が確保されている | ☒ 事業実施に伴うESGRiskの可能性が特定され、管理されるプロセスが文書化されている |
| ☒ 事業の評価と選定基準の概要が公表されている | ☐ その他 |

責任及びアカウンタビリティに係る情報

- | | |
|--|---|
| ☐ 評価・選定基準は外部からのアドバイスまたは検証を受けている | ☒ 社内で評価している |
| ☐ その他 | |

3. 調達資金の管理

本項目に係るコメント欄：

JCRはウエストホールディングスの資金管理について、資金の充当計画が適切に策定されており調達資金がグリーンプロジェクトに確実に充当されること、追跡管理が適切に実施されること、追跡管理にかかる内部統制が適切に図られていること、未充当資金の運用についても特段の懸念がないことを踏まえ、資金管理体制は適切に構築されていると評価している。また、調達資金の管理方法については本レポートにおいて開示されており、投資家に対する透明性は確保されている。

調達資金の追跡管理：

- | |
|--|
| ☒ グリーンボンドの調達資金は分別管理され、または適切な方法で発行体によって追跡管理されている。 |
| ☒ 未充当資金の一時的運用方法について、開示されている。 |
| ☐ その他 |

追加開示事項：

- | | |
|---|---|
| ☐ 新規投資への充当のみ | ☒ 既存・新規投資両方への充当 |
| ☐ 個別の支出に充当 | ☐ ポートフォリオベースの支出に充当 |
| ☐ 未充当資金のポートフォリオバランスを開示 | ☐ その他 |

4. レポーティング

本項目に係るコメント欄：

a. 資金の充当状況に係るレポーティング

ウエストホールディングスは、グリーンファイナンスによる調達資金の充当状況について年次で開示する予定である。開示方法は調達形態に応じ、投資家または貸付人に限定した開示、あるいはウェブサイト上での一般への開示となる予定である。また、グリーンファイナンスの対象資産に変動が生じ、未充当資金が発生した場合も同様にその内容を開示する予定である。

b. 環境改善効果に係るレポーティング

ウエストホールディングスは、グリーンファイナンスの対象資産による環境改善効果について、ウェブサイト上にて年次で開示する予定である。また、調達形態に応じ、投資家または貸付人に対しての発電状況等に関する定期的な報告を予定している。

資金使途のレポーティング：

☒ 個別プロジェクト・ベース

☐ プロジェクトのポートフォリオ・ベース

☐ 個別債券への紐づけ

☐ その他

レポーティング情報：

☒ 充当金額

☐ 投資額に占めるグリーンボンドによる資金充当の割合

☐ その他：

頻度：

☒ 年に一度

☐ 半年に一度

☐ その他：

インパクトレポーティング：

☒ 個別プロジェクト・ベース

☐ プロジェクトのポートフォリオ・ベース

☐ 個別債券への紐づけ

☐ その他

頻度：

☒ 年に一度

☐ 半年に一度

☐ その他：

レポーティング情報（理論値または実績値）：

☐ GHG 排出量 / 削減量

☐ エネルギー削減量

☐ 水使用削減量

☒ その他ESG指標
・ 発電量

開示方法

- | | |
|---|---|
| ☐ 財務諸表における公表 | ☐ サステナビリティレポートにおける公表 |
| ☐ アドホック（非定期）刊行物における公表 | ☒ その他： <ul style="list-style-type: none">・ ウェブサイトにおける公表・ 投資家または貸付人向け開示 |
| ☒ レポーティングの外部レビュー
資金充当状況及びインパクトレポーティングが外部レビュー対象 | |

有用なリンク

株式会社ウエストホールディングス Webサイト

<https://www.west-gr.co.jp/company/outline/>

JCRのグリーンファイナンス評価手法

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

外部レビューを受けた場合、その種類

- | | |
|-------------------------------------|--|
| ☐ セカンド・オピニオン | ☐ 認証 |
| ☐ 検証 | ☒ スコアリング/格付け |
| ☐ その他: | |

レビュー提供者: 株式会社 日本格付研究所

公表日: 2020年2月25日

グリーンボンド原則に定められた、独立レビュー業者の役割

1. **セカンド・パーティ・オピニオン**：環境に関する専門知識を持ち、発行体から独立した機関は、セカンド・パーティ・オピニオンを出すことができる。そのような機関は、グリーンボンドフレームワークに関する発行体のアドバイザーからの独立性や、情報障壁など適切な手順を機関内に設け、セカンド・パーティ・オピニオンの独立性を保証することが必要である。セカンド・パーティ・オピニオンは通常グリーンボンド原則への準拠に関する評価を伴い、特に、発行体の包括的な目標、戦略、環境に関する持続可能性に関する方針および（または）プロセスおよび資金使途となるプロジェクトの環境に関する持続可能性の評価が含まれる。
2. **検証**：発行体は、ビジネスプロセスに関するおよび（または）環境基準についての設定された基準に関する第三者検証を受けることができる。検証は内部または外部基準または発行体による目標に沿っているかにフォーカスする。また、対象資産の環境に関する持続可能な特徴の評価は"検証"と呼ばれ、外部基準を参照することができる。発行体の資金管理、グリーンボンドによる調達資金の配分に関する内部追跡システム、環境へのインパクトまたは、グリーンボンド原則への準拠に関する保証または証明も"検証"と呼ぶことができる。
3. **認証**：発行体は、グリーンボンドフレームワークに関連したグリーンボンドまたは資金使途は、認識されている外部グリーン標準・ラベルの認証を受けることができる。標準またはラベルは、特定の基準を定義し、その定義は認証基準に沿っているかを証明できる能力を有し、認定された第三者機関によって、その基準に沿っているかどうかを検査される。
4. **グリーンボンドスコアリング・レーティング**：発行体は、グリーンボンドフレームワークに関連したグリーンボンドまたは資金使途は、スコアリング・レーティング手法を有している専門調査会社や格付機関といった第三者によって評価もしくは調査されることができる。成果物は、環境改善のデータ、グリーンボンド原則に準じたプロセスまたはその他2度目標などのベンチマークにフォーカスしたものが考えられる。スコアリング・レーティングは、重要な環境リスクを反映しているとしても信用格付とは明確に異なる。